

直売・観光用野菜及び地域特産果樹の安定生産技術の導入支援による地域農業の活性化

農業技術センター北相地区事務所

実施期間：令和4～7年

課題・目的

- 地域農業を活性化するためには、JA神奈川つくいの大型直売所に出荷される野菜の安定生産、イチゴ観光園の需要に見合った生産量の確保、ブドウやブルーベリーの省力化技術等を支援する必要がある。
- 大型直売所の出荷者組合を対象に直売品目の新作型及び新品目の導入、相模原市いちご部会を対象に施設内環境データと生育状況の可視化とそれに基づく栽培管理の改善、ブドウ等は摘蕾櫛や機械剪定の導入等を支援し、販売額や生産量等の拡大を図る。

活動内容

1 野菜の新作型及び新品目の導入支援(R4～5)

- 出荷組合(員)を対象に巡回指導(57回)や講習会(5回)を実施し、新品目の導入を支援した。

導入された野菜：夏まきホウレンソウ、促成イチゴ(R4年度)

夏まきリーフレタス、アーサイ(R5年度)

2 スマート農業技術を活用したイチゴの生産拡大支援(R4～5)

- 施設内環境データの可視化に取り組む生産者を選定し、環境と生育データを収集し、栽培管理の改善を指導した(展示ほ1か所、巡回指導54回)。

3 ブドウ、ブルーベリー栽培における省力化・土壌管理技術の導入支援(R4～5)

- 生産者を対象に巡回指導(33回)や講習会(3回)、視察研修会(2回)を実施し、作業の省力化が図れる摘蕾櫛や機械剪定の導入を支援した。

摘蕾櫛、機械剪定の導入戸数：各1戸



促成イチゴの生産状況

今後の展開

- 大型直売所における地場農産物販売額やイチゴやブドウ等の生産量(面積)の拡大に向けて、引き続き出荷組合等を対象に継続して技術支援する。